

## 令和7年度 烏山小学校自己評価報告書

### I 本校の令和7年度教育目標及び学校経営方針

別紙（4月に家庭数にて配布：学校ホームページに掲載）参照

### II 学校概要

学校要覧を参照

＜自己評価報告書を作成するに当たって＞

- 学校関係者評価アンケートの項目に沿って「学校の自己評価」「保護者・地域のアンケート調査」「児童のアンケート調査」「学力テスト」等の分析から、次年度の改善点の方向性を示しています。
- 保護者の回収率は89.6%（昨年度は85.2%）地域の回収率は59%（昨年度は40%）でした。
- 「とても思う」「思う」の評価を肯定的回答とし、その合計が80%を越えるものにはよい効果が出たと捉えます。（○印）  
「あまり思わない」「思わない」「わからない」を否定的回答とし、その合計が20%を越えるものには課題があると捉えます。（●印）
- 回答を肯定的、否定的に分け、保護者・児童・地域の結果と教員の結果に20%以上の開きがあるものには課題があると捉えます。

### III 教員自己評価、関係者評価アンケートからの分析

#### 1 重点目標① 主体的に探究する子どもの育成（研究）

##### 【学校の自己評価から】

- 「わが子は、学ぶことが楽しいと感じている」の肯定的回答が97.4%であった。
- 「本校は、子どもが考えることや、課題を解決することを大切にした授業を行っている」の肯定的回答が97.4%であった。
- 「本校は、子どもが考えたことを話し合ったり発表したりする機会がある」の肯定的回答が100%であった。
- 「わが子は、授業で自分の考えをもつことができている」の肯定的回答が97.4%であった。
- 「わが子は、授業で考えを伝え合うことができている」の肯定的回答が97.4%であった。
- 「わが子は、友達の考えを聞いて自分の考えを深めたり、広げたりしている」の肯定的回答が97.4%であった。
- 「わが子は、学習したことを生活の中で活用している」の肯定的回答が94.8%であった。
- 「わが子は、すぐにあきらめずに学習に取り組んでいる」の肯定的回答が94.8%であった。
- 「わが子は、学校で自分なりに工夫して学習したり、活動に参加したりすることができていると感じている」の肯定的回答が100%であった。

##### 【保護者・地域の関係者アンケートから】

- 「わが子は、学ぶことが楽しいと感じている」の肯定的回答が81.1%であった。
- 「本校は、子どもが考えたことを話し合ったり発表したりする機会がある」の肯定的回答が88.8%であった。
- 「本校は、子どもが考えることや、課題を解決することを大切にした授業を行っている」の否定的回答が20.7%であった。

- 「わが子は、授業で自分の考えをもつことができている」の否定的回答が 25.8%であった。
- 「わが子は、授業で考えを伝え合うことができている」の否定的回答が 34%であった。
- 「わが子は、友達の考えを聞いて自分の考えを深めたり、広げたりしている」の否定的回答が 26.7%であった。
- 「わが子は、学習したことを生活の中で活用している」の否定的回答が 20.9%であった。
- 「わが子は、すぐにあきらめずに学習に取り組んでいる」の否定的回答が 27.2%であった。
- 「わが子は、学校で自分なりに工夫して学習したり、活動に参加したりすることができていると感じている」の否定的回答が 21.4%であった。

#### 【児童のアンケート調査から】

- 「学ぶことが楽しい」の肯定的回答が 87.2%であった。
- 「先生は、考えることや、課題を解決することを大切にしたい授業を行っている」の肯定的回答が 98.2%であった。
- 「授業では、子どもが考えたことを話し合ったり発表したりする機会がある」の肯定的回答が 95.6%であった。
- 「授業で自分の考えをもつことができている」の肯定的回答が 91.1%であった。
- 「授業で考えを伝え合うことができている」の肯定的回答が 83.9%であった。
- 「友達の考えを聞いて自分の考えを深めたり、広げたりしている」の肯定的回答が 93.3%であった。
- 「すぐにあきらめずに学習に取り組んでいる」の肯定的回答が 87.2%であった。
- 「学校で自分なりに工夫して学習したり、活動に参加したりすることができていると感じている」の肯定的回答が 90.6%であった。
- 「学習したことを生活の中で活用している」の否定的回答が 23.9%であった。

#### 《改善案》

- ・探究的な授業の継続と発展：児童の 98.2%が「考える授業」を高く評価している点は、今年度の研究「主体的に探究する児童の育成」の成果であると判断できる。さらに、児童・保護者双方から「学ぶことが楽しい」という肯定的回答が多く得られたため、この探究的な学びのサイクルを次年度も授業の核として継続・発展させる。
- ・学習の活用を促す指導の強化：児童評価で唯一否定的回答が 20%を超えた「学習したことを生活の中で活用している」という課題に対応する。授業の終末などに、学んだ知識を実生活にどう生かせるかという価値付けや振り返りを意識して促す指導を強化する。
- ・家庭との連携による粘り強さの育成：保護者評価で最も否定的回答（27.2%）が多かった「すぐにあきらめずに学習に取り組んでいる」について、家庭学習での粘り強さの育成を課題とする。授業で行っている探究的な課題解決に繋がる自主学習を家庭学習にする、など、ドリルだけでない家庭学習を増やす。
- ・保護者への情報提供の改善：保護者評価で「分からない」という回答が多かった点を踏まえ、学校の情報発信を改善する。4月の保護者会では、家庭での取組も考えてもらい、教師と保護者双方の対話を増やし、授業公開時には、話し合いや交流の場面を意識して見せることで、教育活動への理解を深めてもらう。

## 2 重点目標② 多様性を認め合える子どもの育成」について（特活）

### 【学校の自己評価から】

- 「クラスの友達は、わが子のことを認めてくれていると感じている」の肯定的回答が 100%であった。
- 「わが子は、相手のことを考えて接することができる」の肯定的回答が 100%であった。
- 「わが子は、クラスのために役立とうとしている」の肯定的回答が 100%であった。
- わが子は、クラスの友達といっしょにより良いクラスにしようと努力している」の肯定的回答が 100%であった。

### 【保護者・地域の関係者アンケートから】

- 「クラスの友達は、わが子のことを認めてくれていると感じている」の肯定的回答が 87.7%であった。
- 「わが子は、相手のことを考えて接することができる」の肯定的回答が 85.8%であった。
- 「わが子は、クラスのために役立とうとしている」の肯定的回答が 82.6%であった。
- わが子は、クラスの友達といっしょにより良いクラスにしようと努力している」の否定的回答が 21.7%であった。

### 【児童のアンケート調査から】

- 「クラスの友達は、わが子のことを認めてくれていると感じている」の肯定的回答が 89.5%であった。
- 「わが子は、相手のことを考えて接することができる」の肯定的回答が 93.4%であった。
- 「わが子は、クラスのために役立とうとしている」の肯定的回答が 87.2%であった。
- わが子は、クラスの友達といっしょにより良いクラスにしようと努力している」の肯定的回答が 90.0%であった。

### 《改善案》

- ・「学校の自己評価」や「児童」のアンケートからは概ね 80%の肯定的回答にあったのに対し、「保護者・地域の関係者」からのアンケート結果は、すべての項目において 80%前後である。学校や学級での活動に対して満足している児童が多いようだが、その様子が家庭や地域の方々に伝わっていないようである。
- ・特に、「クラスの友達はわが子のことを認めてくれている」「クラスの友達といっしょにより良いクラスにしようと努力している」に対して、「分からない」の回答が 7.9%、9.5%とそれぞれ高く、友達との関係や協力について、学校の様子やわが子様子が保護者に伝わりにくいことがわかる。
- ・「学校・児童」と「保護者・地域の関係者」との認識の差があることも伺える。児童の活動や成果が家庭・地域に伝わるよう、保護者会、HP 等を通して発信できるようにしたい。
- ・学年だよりの学校だよりの組み込み、学校公開の日数の削減などに代わって、学級や学校の様子を児童自ら家庭に伝える機会や、学校から発信する方法を考える必要がある。

## 3 重点目標③ 心と体の健康な子どもの育成」について（体育）

### 【学校の自己評価から】

- 「わが子は、体力の向上や健康な生活に取り組んでいる。」の肯定的回答が 100%である。
- 「わが子は、体を動かすことを楽しんでいる。」の肯定的回答が 100%である。
- 「わが子は、学校で体を動かしている。」の肯定的回答が 100%である。
- 「わが子は、うまくいかないことがあっても課題に取り組もうとしている。」の肯定的回答が 97.4%

である。

【保護者・地域の関係者アンケートから】

- 「わが子は、体を動かすことを楽しんでいる。」の肯定的回答が 86.8%である。
- 「わが子は、学校で体を動かしている。」の肯定的回答が 80.3%である。
- 「わが子は、体力の向上や健康な生活に取り組んでいる。」の否定的回答が 21.2%である。
- 「わが子は、うまくいかないことがあっても課題に取り組もうとしている。」の否定的回答が 26.3%である。

【児童のアンケート調査から】

- 「体力の向上や健康な生活に取り組んでいる。」の肯定的回答が 83.9%である。
- 「体を動かすことは楽しい。」の肯定的回答が 87.8%である。
- 「学校で体を動かしている。」の肯定的回答が 86.7%である。
- 「うまくいかないことがあっても課題に取り組もうとしている。」の肯定的回答が 86.1%である。

《改善案》

- ・「わが子は、体力の向上や健康な生活に取り組んでいる。」という項目において保護者より学校の肯定的回答が約 20%高く、保護者とのズレがある。学校では体育の授業の他に、行事や持久走・長縄旬間、中休みは外で遊ぶ等、体を動かす機会が多く設定し、実践をしている。しかし保護者にそのことを伝えきれていないことが原因であると考えられる。また、学校全体で行事の精選・縮小等の傾向があり、以前と比べて物足りなさを感じていることも原因の一つだと考える。
- ・「わが子は、うまくいかないことがあっても課題に取り組もうとしている。」の項目において保護者より学校の肯定的回答が約 23%高く、保護者とのズレがある。学校での活動を家庭に伝えきれていないことや、多様性を認め合い、がんばりすぎなくても良いという時代の流れから子どもは、すぐにあきらめてしまうという印象をもっていることも原因の一つだと考える。
- ・年間を通して行っている体育的な行事、旬間での取り組みを学校だけでなく、家庭・地域にもより一層周知していき、学校と家庭・地域と連携して盛り上げていくことが必要である。学校としても、今まで通り取組の様子を学校だよりやホームページで周知していく。
- ・学校と家庭と連携をしながら、学校と家庭のそれぞれの様子を伝え合いながら最後まで粘り強く取り組んでいけるような取り組みを学校・家庭の双方で行っていく。

4 取組 教育のプロとして教員の資質や組織力の向上」について（生活）

【学校の自己評価から】

- 「子どもの意欲を大切にしている」の肯定的回答が 100%である。
- 「教員が指導した学校でのルールや過ごし方について理解している」の肯定的回答が 100%である。
- 「学校での過ごし方やルールについて考えさせる指導をしている」の肯定的回答が 100%である。

【保護者・地域の関係者アンケートから】

- 「教員が指導した学校でのルールや過ごし方について理解している」の肯定的回答が 86.8%である。
- 「学校での過ごし方やルールについて考えさせる指導をしている」の肯定的回答が 77.4%であり、他の項目に比べ低い。

【児童のアンケート調査から】

- 「子どもの意欲を大切にしている」の肯定的回答が 98.4%である。
- 「学校でのルールや過ごし方について理解している」の肯定的回答が 96.6%である。

○「学校での過ごし方やルールについて考える場面がある」の肯定的回答が 92.2%である。

《改善案》

・生活上の安全について、学校では具体例を示して指導する場面もあれば、どんな危険があるか、どうすれば安全に過ごせるか、なぜやってはいけないのかなど、子どもに考えさせる指導を行う場面もある。実際に考えさせる指導をした例や子どもの反応、変容などについて、保護者会やホームページ等を活用して発信していくようにする。

5 取組 インクルーシブ教育を推進し、保護者・地域との連携」について（教務・特別支援）

【学校の自己評価から】

- 「本校は、子どものことを相談しやすい。」の肯定的回答は 100%である。
- 「本校は、保護者に学校の重点目標を伝えている。」の肯定的回答は 97.4%である。
- 「本校は、地域に情報を提供している。」の肯定的回答は 97.4%である。
- 「本校は、様々な便りなどで、インクルーシブ教育（インクルーシブ教育支援員の活用・ほっとルームをはじめとする学びの場の環境整備・タブレット端末活用による個別対応等）について保護者に情報を提供している。」の肯定的回答は 97.4%である。
- 「本校は、学校公開や保護者会、ホームページで、児童の様子が分かる。」の肯定的回答は 100%である。
- 「私は、学校行事、PTA や地域主催の行事などにすすんで協力している。」の肯定的回答は 97.4%である。

【保護者・地域の関係者アンケートから】

保護者

- 「本校は、保護者に学校の重点目標を伝えている。」の肯定的回答は 86.3%である。
- 「本校は、様々な便りなどで、インクルーシブ教育（インクルーシブ教育支援員の活用・ほっとルームをはじめとする学びの場の環境整備・タブレット端末活用による個別対応等）について保護者に情報を提供している。」の肯定的回答は 81.4%である。
- 「本校は、学校公開や保護者会、ホームページで、児童の様子が分かる。」の肯定的回答は 91.4%である。
- 「本校は、子どものことを相談しやすい。」の否定的回答は 21.2%である。
- 「本校は、地域に情報を提供している。」の否定的回答は 22.4%である。
- 「私は、学校行事、PTA や地域主催の行事などにすすんで協力している。」の否定的回答は 40.2%である。

地域

- 「行事等の事前の準備や当日の案内などで、地域への配慮がある。」の肯定的回答は 89.7%である。
- 「学校からのお知らせ（学校だより）などにより、学校の様子が分かる。」の肯定的回答は 97.4%である。
- 「学校公開や道徳授業地区公開講座などで学校の様子が分かる。」の肯定的回答は 84.6%である。
- 「学校のホームページや、学校からのお知らせから学校生活の様子が分かる。」の肯定的回答は 89.7%である。
- 「地域の意見に対して、学校はていねいに説明・対応をしている。」の否定的回答は 25.6%である。
- 「地域の人や施設を教育活動に活かしている。」の否定的回答は 20.6%である。

- 「学校協議会が役割を果たしている。」の否定的回答は30.8%である。
- 「学校運営委員会は活動を周知し、役割を果たしている。」の否定的回答は25.6%である。

【児童のアンケート調査から】

- 「先生・スクールカウンセラーなどに相談しやすい。」の否定的回答は37.7%である。
- 「学校行事、PTAや地域主催の行事などにすすんで参加している。」の否定的回答は43.4%である。

《改善案》

・学校からの情報提供などの取り組みについての回答は肯定的なものの、学校への相談や様々な行事への参加・地域との連携に関する項目においては否定的回答が目立つ。また、保護者・地域・児童の否定的回答には「分からない」との回答も目立つことから各種おたよりやHP、保護者会等で周知と理解を図る必要がある。

6 取組 キャリア・未来デザイン教育の実現について（キャリア・学舎）

【学校の自己評価から】

- 「本校の学校生活は、子どもにとって楽しい。」の肯定的回答は100%である。
- 「本校は、近隣の（幼）小・中学校で構成する「学び舎」による幼稚園・小学校・中学校の連携や交流活動が行われている。」の肯定的回答は97.4%である。
- 「本校の教員は、子どもに目標をもたせ、その実現のために支援している。」の肯定的回答は97.4%である。
- 「本校は、子どもの生き方や将来のことについて考える授業をしている。」の肯定的回答は97.4%である。

【保護者・地域の関係者アンケートから】

保護者

- 「本校の学校生活は、子どもにとって楽しい。」の肯定的回答は87.4%である。
- 「本校は、近隣の（幼）小・中学校で構成する「学び舎」による幼稚園・小学校・中学校の連携や交流活動が行われている。」の否定的回答は22%である。
- 「本校の教員は、子どもに目標をもたせ、その実現のために支援している。」の否定的回答は23.4%である。
- 「本校は、子どもの生き方や将来のことについて考える授業をしている。」の否定的回答は39.7%である。

地域

- 「本校は、近隣の（幼）小・中学校で構成する「学び舎」の活動について、情報が提供されている。」の否定的回答は34.8%である。

【児童のアンケート調査から】

- 「学校生活は、楽しい。」の肯定的回答は92.7%である。
- 「なりたい自分や将来やりたいことについて考える学習をしている。」の否定的回答は27.8%である。

《改善案》

- ・各教科、道徳、総合的な学習の時間、学校行事の機会を通して、生き方や将来のことについて考える授業や活動はあるが、学校の自己評価と保護者・地域の関係者、児童のアンケート結果の数値は大きく異なっている。質問の内容と日頃の学習の繋がりを意識できるように「今の教育活動がどう生き方（キャリア）に関わってくるのか。」ということ、日常的にもっと児童に伝えていくことで改善を図る。また、保護者の「本校は、子どもの生き方や将来のことについて考える授業をしている。」の否定的回答 39.7%のうち 21.6%は「分からない」と回答していることをはじめ保護者・地域ともに「分からない」との回答が目立つ、学校だよりや HP、保護者会等で保護者・地域への周知と理解を図る必要がある。

## 7 その他 「学校生活全般」について（生活・図書）

### 【学校の自己評価から】

- 「安全な学校づくりを進めている」の肯定的回答が 100%である。
- 「本を読むことが好きである。」の肯定的回答が 100%である。

### 【保護者・地域の関係者アンケートから】

#### 保護者

- 「安全な学校づくりを進めている」の肯定的回答が 85.8%であるが、他の項目に比べるとやや低い。
- 「わが子は本を読むのが好きである。」の否定的回答が 36%である。

#### 地域

- 「通学している子どもたちは、交通ルールなどを守っている」の否定的回答が 20.5%である。
- 「本校の児童はあいさつができていない」の否定的回答が 33.3%である。

### 【児童のアンケート調査から】

- 「学校行事で、達成感を感じている。」の肯定的回答が 93.9%である。
- 「本を読むことが好きである。」の否定的回答が 28.8%である。

### 《改善案》

- ・校内では、あいさつ当番に取り組んだり、大人が積極的にあいさつすることを心掛けたりしていることで、本校の子どもたちは素直にあいさつすることができている。今後は、学校外でのあいさつや、来校者へのあいさつの大切さについても伝えることで、地域へのあいさつの活発化を促していく。
- ・交通ルールについては、交通安全教室や全校朝会等で繰り返し指導し、どうすれば危険を防げるかを子どもに考えさせる場を設けていく。
- ・朝読書や図書・国語の時間など、学校では子供たちが本を楽しんで読んでいる様子がよく見られる。子供たちは家に帰ると、本以外の様々な物が身近にあり、本に向かう時間を積極的に取ろうと思う児童が少なくなると思う。加えて、児童は放課後や土日も様々な予定が入っており、忙しくしているため、児童も保護者も本を楽しむ経験が減ってしまっている。そのため、学校で読書の楽しさを味わう時間を設定し、読書ができる環境を整え、興味がありそうな本と出合わせるような機会を増やすことで、読書が好きだと思えるようにしていく。